

# 大沢野担当区における安全活動について

富山営林署 早 苗 博 文

はじめに

富山営林署としては、昭和45年度に無災害を記録したが、その後は毎年災害を起している。その中において担当区は、3ヶ年で4件もの災害を出し、全く不名誉な記録を作ってしまった。

〔別紙参照〕

毎年、年度当初に署の方針に基づき、担当区全体で練り上げた安全活動方針に添って、より安全に心を合わせて今年こそは無災害で下山しようと誓い合うのだが、その達成はなかなか容易ではない。

『その困難な原因は、では何なのだろうか』という疑問にいつもぶつかるのが、安全活動のむづかしいところかと思っている。

そこで私は、安全意識高揚のため全員が参加して、より安全活動を充実させる体制を作り、『絶対今年は無災害を出さない』という自覚を1人1人に持たせる必要を感じ、以下述べる方法を実践し今年度の災害ゼロという成果を得たので、その体験を発表します。

## 1. 昭和50年度の安全衛生活動の概要

### (1) 目 標

過去2年続いて発生している災害を今年は無災害とする。

### (2) 重点実施事項

#### (ア) 作業基準、同心得の励行と定着

(作業種が変わった時など、推進員を中心として基準を読み直し、みんなで理解を深める。)

特に足元手先の安全確認を励行する。

(推進員班長を中心として話し合った。)

#### (イ) 不安全箇所と安全作業の事前点検

作業着手前に現地を巡視して安全作業方法を検討し、不安全な箇所を排除する。

#### (ウ) 安全運転の励行

入下山時の車輛点検及び防衛運転の徹底につとめる。

## 2. 具体的な実施計画

### (1) 個人の目標設定

各自が年間(4月～11月)を通じて、どうしてもこれだけは守りたいという安全目標を設定さ

せる。そしてこの目標に対して毎月反省を行い記録する。これは年間を通して自分の目標を忘れず、毎月をよりよい方向へ進めると共に、常に安全に対する心掛を忘れないことを目的としたものである。

(2) 全体目標

月間目標として毎月TBMの際に、推進員が中心となってその月の作業種天候等を考えて目標を樹て注意を促す。

(3) 作業現場の事前点検

作業着手前に現場を点検し、作業方法などの指示徹底につとめる。

1日1日が変わる環境にある作業現場は、特に事前の点検が大切である。

主任、補助員は必ず作業着手前に現地を巡視し、適切で安全な作業方法を班長、推進員に理解させ指導する。

(4) 安全運転の徹底

車輛点検の励行、法令講習などに積極的に参加する。

(5) 健康管理の充実

各自が自分の体調を整えるため、林業体操を励行する。宿舍の整理整頓につとめる。

(6) TBMを積極的に開催する。

(7) チーム・ワークの向上につとめる。

### 3. 実施結果の反省

(1) 実施状況とその問題点

(別表のとおり)

(2) 実施結果

みんなの願いがかなって、今年は無災害となった。

私たちは、

年度当初、今年こそはという自覚のもとに自分の目標を設定し、それに対して反省をくり返して、常に安全の重要性を忘れなかったことが、無災害に結びついたと思っている。

この反省のもとに、来年度は、

一歩進んだ目標設定を行ない、みんなで安全意識を更に盛り上げて無災害を継続して行くことを胸に刻み、山での無災害をみやげに下山した。

## 実施状況とその問題点

項 目	実 施 状 況	問 題 点																																										
<p>(1) 安全意識の高揚</p> <p>(ア) 目標設定</p> <table border="1" data-bbox="179 408 537 875"> <thead> <tr> <th colspan="4">安 全 目 標</th> </tr> <tr> <th>氏名</th> <th colspan="2"></th> <th>職種</th> </tr> <tr> <th>目 標</th> <th colspan="3"></th> </tr> <tr> <th>月 別</th> <th colspan="3">反 省</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.</td> <td colspan="3" rowspan="7"></td> </tr> <tr> <td>5.</td> </tr> <tr> <td>6.</td> </tr> <tr> <td>7.</td> </tr> <tr> <td>8.</td> </tr> <tr> <td>9.</td> </tr> <tr> <td>10.</td> </tr> <tr> <td>11.</td> </tr> </tbody> </table>	安 全 目 標				氏名			職種	目 標				月 別	反 省			4.				5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.	<p>安全は「話を聞く」ということだけでは容易に守れない。常に安全に対する意識を持続させることが大切であり、それには自分で何等かの目標をたて、それを忘れないことが安全意識の高揚につながると考えました。そして全員が年間の安全目標を設定し毎月反省を行って必要事項を記入していくことにしました。</p> <p>ここに、ある1人の安全目標を掲げておりますが、この安全目標を宿舍の目に付きやすい場所に掲示して皆などと話し合い、協力できるものは協力して互の欠点を補い合って、自分が安全活動の迷子にならないとともにチームワークを守りながら自分の安全を守る心構えを身に付けさせました。</p> <p>目標の内容については</p> <table data-bbox="647 916 1072 1145"> <tbody> <tr> <td>環境に関するもの</td> <td>目標</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>健康に</td> <td>〃</td> <td>3〃</td> </tr> <tr> <td>交通に</td> <td>〃</td> <td>2〃</td> </tr> <tr> <td>家庭に</td> <td>〃</td> <td>1〃</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>〃</td> <td>12〃</td> </tr> </tbody> </table>	環境に関するもの	目標	6名	健康に	〃	3〃	交通に	〃	2〃	家庭に	〃	1〃	計	〃	12〃	<p>1. 年度当初から7月頃までは、今年こそという意気込で、かなりの意識高揚が見受けられたが、7月中旬から8月中旬にかけて暑さのためか、マンネリ化の状態にあった。</p> <p>このことから夏季にもう一つ工夫をこらした活動が必要と思われた。</p> <p>2. 書くことの苦手な人もいたが、自分で安全を守るのだという心構えから自筆でと指導したが、完全とまでには至らなかった。</p>
安 全 目 標																																												
氏名			職種																																									
目 標																																												
月 別	反 省																																											
4.																																												
5.																																												
6.																																												
7.																																												
8.																																												
9.																																												
10.																																												
11.																																												
環境に関するもの	目標	6名																																										
健康に	〃	3〃																																										
交通に	〃	2〃																																										
家庭に	〃	1〃																																										
計	〃	12〃																																										

項 目	実 施 状 況	問 題 点
<p>(イ) 過去の災害の分析と反省</p> <p>(ロ) 安全大会</p> <p>(ニ) 事業最盛期の安全懇談会</p>	<p>私は、この目標設定について、作業員1人1人が今年こそはという意気込から、積極的に協力してくれた気持ちを大切に安全活動に対する考えをさらに身近かなものにしていきたいと          思います。</p> <p>昭和48年と49年に3件の災害を起しているが、いずれも足元手先の安全確認不足が起因した災害である。私たちは2年にわたり類似災害を起したことは、まことに恥かしいことであり、今年には絶対に類似災害を出さないと、再三にわたり注意を促した。</p> <p>又、安全速報による災害については、他人ごとではなく、自分の場合はどう対処したのだろうかという、生きた安全教訓として扱い、機を失せず話し合った。</p> <p>安全大会には3名の体験発表を行い、みんなで安全意識をもり上げた。</p> <p>8月に開いた安全懇談会においては、それぞれの立場から発言があり、推進員の役割の難かしさや、心のゆるみが出ていたなど、素直な話し合いがあり、残り3ヶ月を無災害で過すため3つの確認を行った。</p> <p>① お互いに気のゆるみがあったので、ここで引締めていこう。</p>	

項 目	実 施 状 況	問 題 点
<p>(2) 作業現場の事前点検</p> <p>(3) 安全運転の徹底</p>	<p>② 当初たてた目標を完遂して、無災害を樹立しよう。</p> <p>③ 健康第一で、自分の安全を確保しよう。</p> <p>作業計画に基づき、主任、補助員が現地を事前に巡視した後、班長、推進員に対し、その状況を話し対応策を考える。</p> <p>林道、歩道、作業道具の整備、人員配置、作業方法などについて確認を行い作業を開始する。特に雨期及び悪天候の日は、補助員が現場で直接指導する。</p> <p>作業員1人1人の指導は、毎朝実施しているTBMの時間に行うとともに、現地での指導も行う。</p> <p>定期及び日常点検を確実にを行い、特に足まわり、油もれなどについて気をつけた。又、安全上支障のある箇所は直ちに点検整備に出した。</p> <p>一般車の乗り入れ増加に伴う林道の安全運転については、常に防衛運転の気持を忘れないようにした。運転手は、寝不足、深酒をやめ、周囲もそれに協力した。</p> <p>入下山時の運転には特に気をつけ、運転が終了するまで主任又は補助員は安全確認を行った。林道の走行中転石があれば、直ちに取り除き、後の走行の支障とならないようにした。道路標識、カーブミラーの整備に力を入れた。</p>	<p>日々変わる現場の環境のすべてについて指導することは困難であるが、傾斜、植生、作業種、天候などについて、基本的な注意事項が必要であると思う。</p>

項 目	実 施 状 況	問 題 点
(4) 健康管理の充実	<p>林道の構造物については、安全点検の際に専門職が点検し、改善必要箇所の指摘にそって善処した。</p> <p>林業体操は完全に実施した。</p> <p>飲料水は、取水口を整備し適とした。</p> <p>常に血圧の高い人がいるので月1回以上、下山のたびに検診を受けさせた。辺地の宿舎であるから、入山中は特に自分の身体の調子に気を配り、症状が悪化しないうちに下山して、応診させる体制をとった。宿舎の整理整頓は自主的に行い、衛生面においては、炊事手を中心に実行した。</p>	
(5) TBMを積極的に開く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日のTBMは推進員と班長を中心に、仕事及び安全について話し合う。</li> <li>・ 作業環境及び指示文書があった場合は、40分前後の時間をかけ話し合った。</li> <li>・ 主任は週1回は必ず参加した。</li> <li>・ TBMの記録は、推進員が行った。</li> <li>・ 月間の安全目標は、この時間に決めた。</li> <li>・ 安全のこと、作業段取のこと、その他一切について話し合う時間であり、大変貴重な時間であった。</li> </ul>	

項 目	実 施 状 況	問 題 点
(6) チームワークの向上につとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班内の役割は年度当初互選した。</li> <li>・ 就寝は遅くとも午後10時とした。</li> <li>・ 主作業が終了したときは、慰労会を開き疲れをいやし反省を行った。</li> <li>・ 班内に問題が生じたときは早朝会合を開き、全員参加のT.B.Mを行った。</li> </ul>	